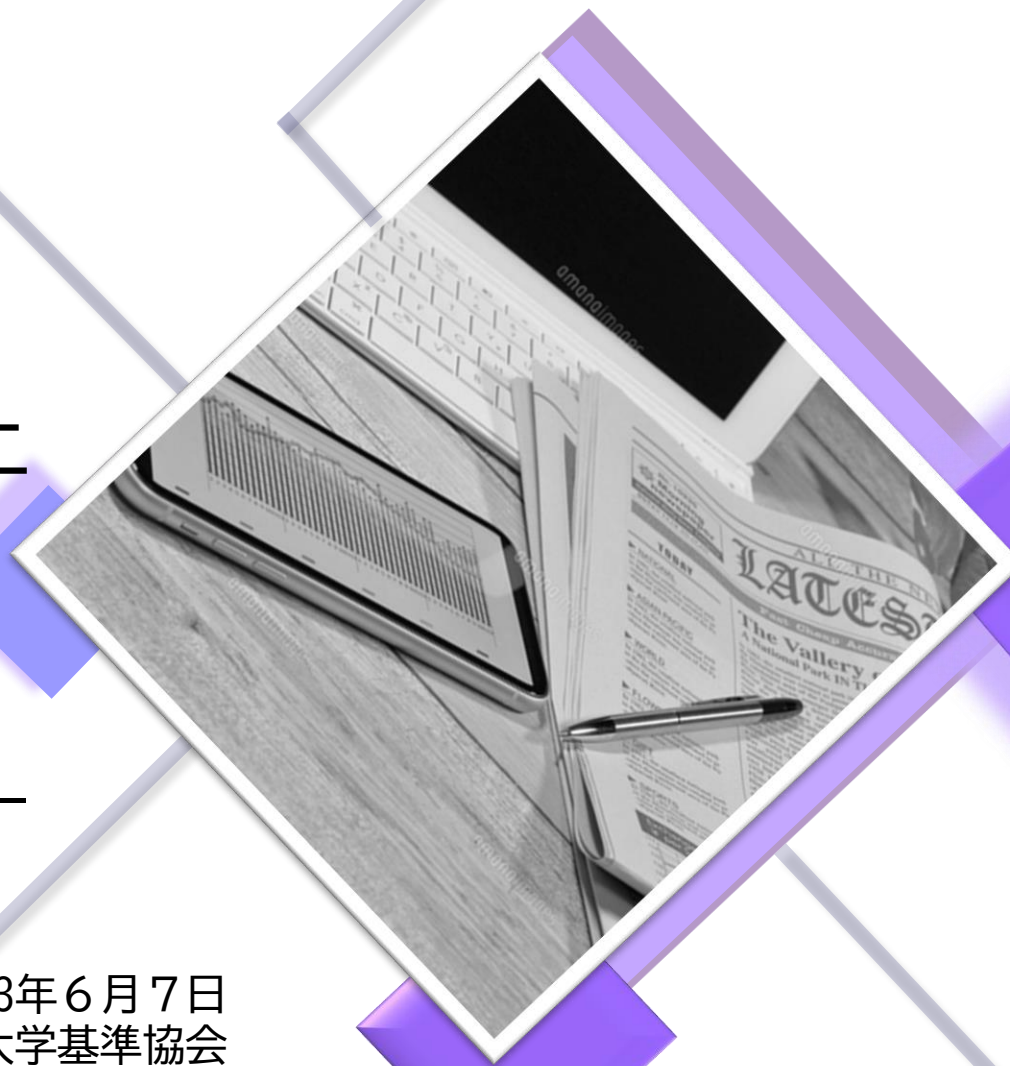


学習成果の把握・評価 と教育の質の向上

—2022年度大学評価(認証評価)結果、
事例報告校の評価結果に見る
学習成果の把握・評価と内部質保証の取り組み—

事例報告会 2023年6月7日
公益財団法人 大学基準協会
評価事業部 評価第1課
課長 中村 安希



評価基準に見る 学習成果、内部質保証

大学基準、短期大学基準
における内部質保証、
教育課程・学習成果

大学基準、短期大学基準に
おける内部質保証の定義

内部質保証の機能に必要な
取り組み（ポイント）

学習成果と教育の
改善・向上、質保証

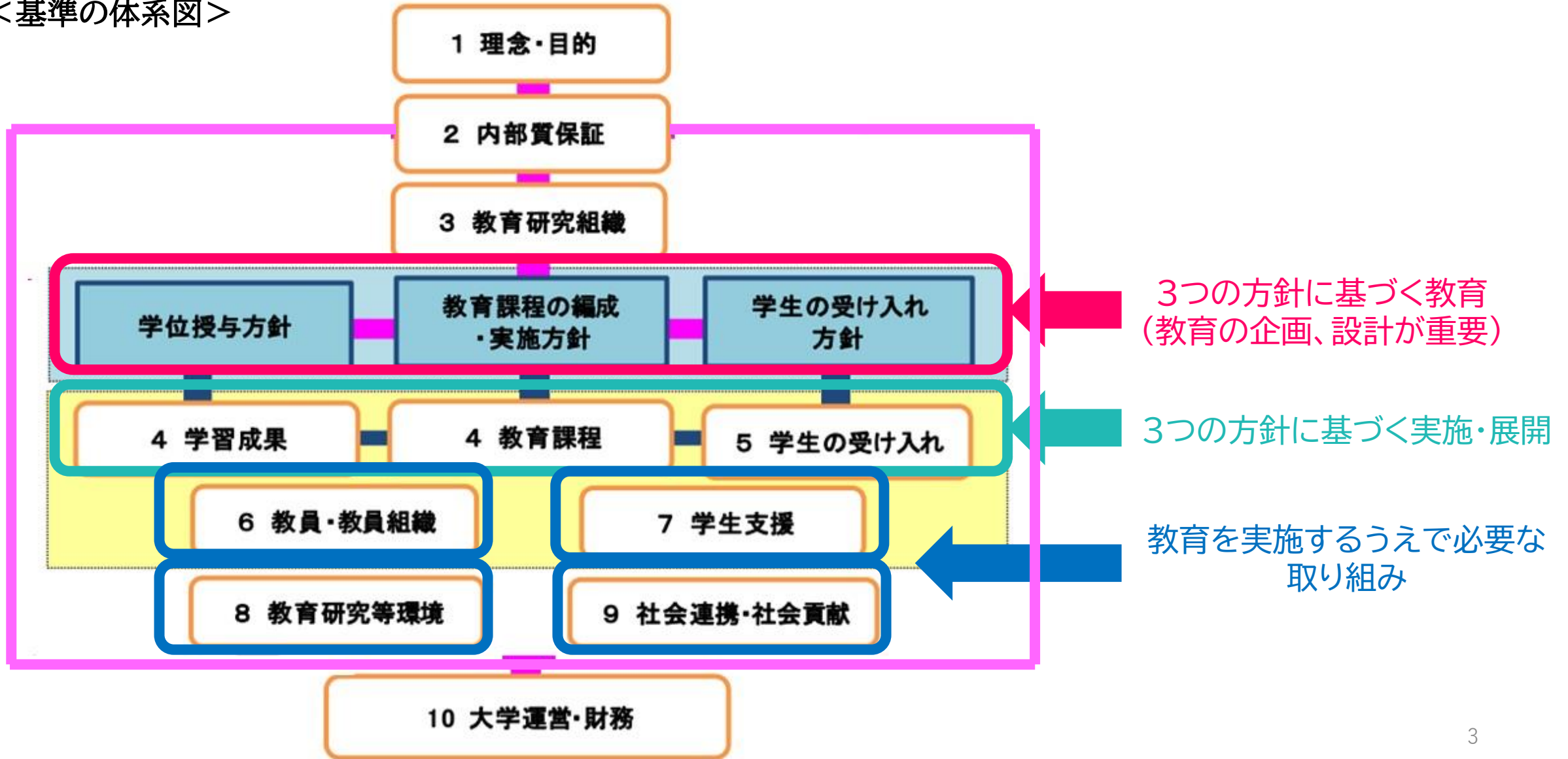
Contents

2022年度大学評価結果に見る 学習成果の把握・評価と 教育の質向上の取り組み

第3期における実績
～提言分析～

評価結果に見る取り組み事例
・名城大学
・九州ルーテル学院大学
・高知県立大学

<基準の体系図>



大学基準（解説）より ※抜粋

※短期大学基準においても、同様の基準を定めています。

基準 2

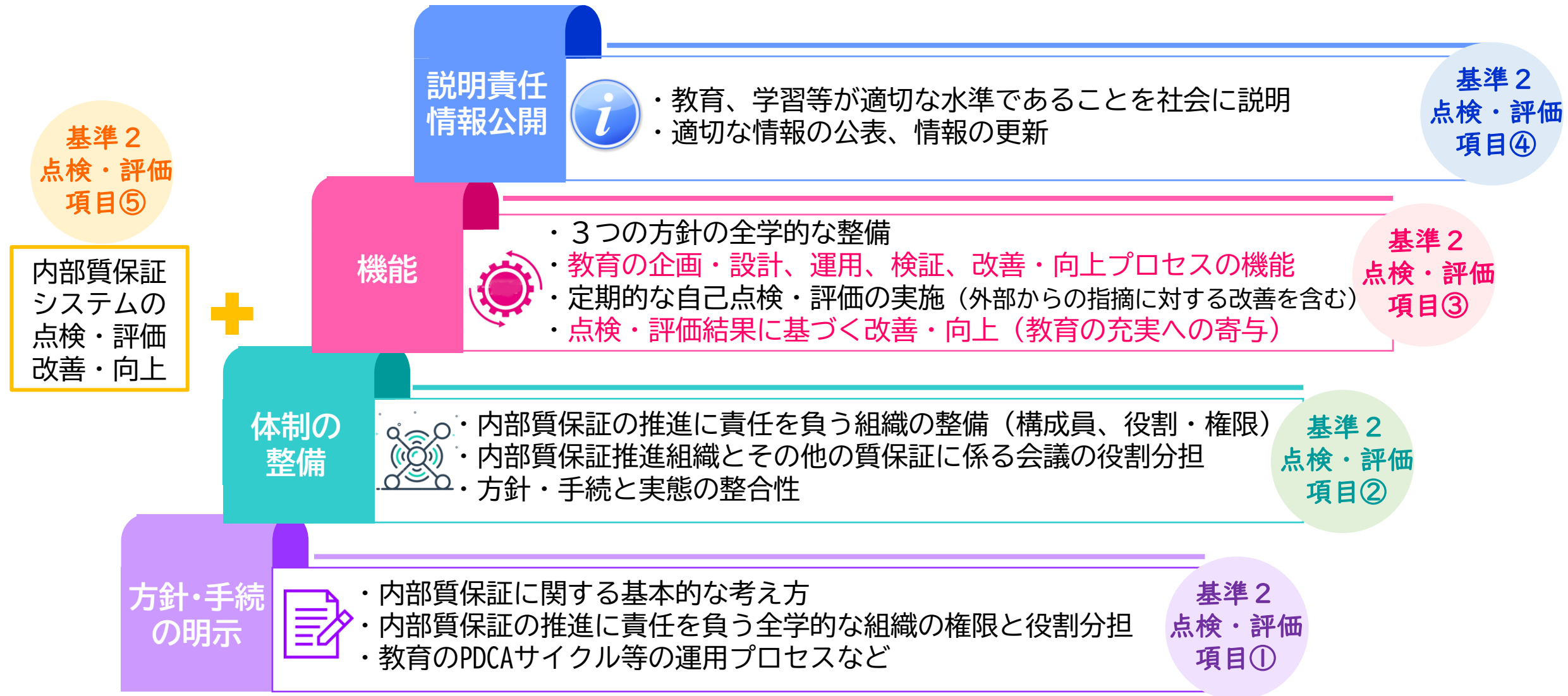
内部質保証とは、PDCAサイクル等を適切に機能させることによって、質の向上を図り、教育、学習等が適切な水準にあることを大学自らの責任で説明し証明していく学内の恒常的・継続的プロセスのことである。

基準 4

- ・当該学位にふさわしい学習成果を示した学位授与方針を定め、公表しなければならない。
- ・それぞれの学位課程における教育研究上の目的や学習成果の修得のためにふさわしい授業科目を適切に開設する必要がある。
- ・大学は、学位授与方針に示した知識、技能、態度等の学習成果を学生が修得したかどうかを把握し、評価することが必要である。そのために、学習成果を様々な観点から把握し評価する方法や指標を開発し、それらを適用する必要がある。

内部質保証の目的 … 教育の充実 → 学生の学習成果の向上

内部質保証の機能に必要な取り組み（ポイント）



教育の改善サイクルと学習成果の把握・評価



- 3つの方針の策定
- 学位授与方針に卒業・修了までに修得すべき知識・能力・態度等を明示

➡ **学習成果**



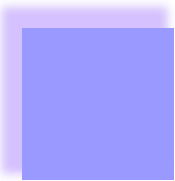
- 学位にふさわしい教育課程の編成(体系的・順次性)
- 学習成果の修得に向けた効果的な教育の措置(授業方法の工夫、単位の実質化、シラバスの作成、履修指導など)



- 学生が修得した能力等の測定(把握・評価)
- 教育課程、教育方法の適切性の検証
- 効果的な教育だったかの検証

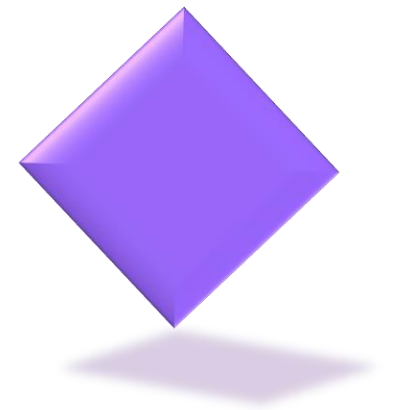


- 教育の充実に向けた方策の検討➡実行
- エビデンスの蓄積・分析➡学習成果の向上実績に基づく改善



2022年度大学評価結果に見る 学習成果の把握・評価と教育の質向上の取り組み

基準4 教育課程・学習成果(学習成果の把握・評価)/
基準2 内部質保証(機能させるための取り組み)

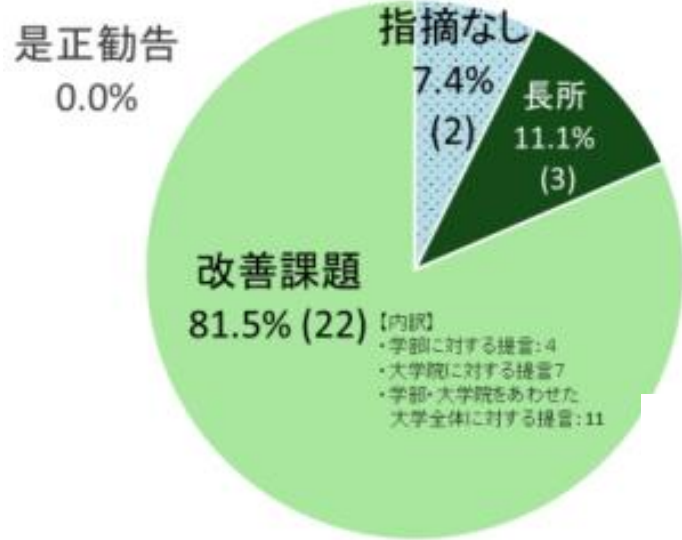


第3期における実績 ～提言分析～

2018年度評価結果

申請大学数:27

学習成果

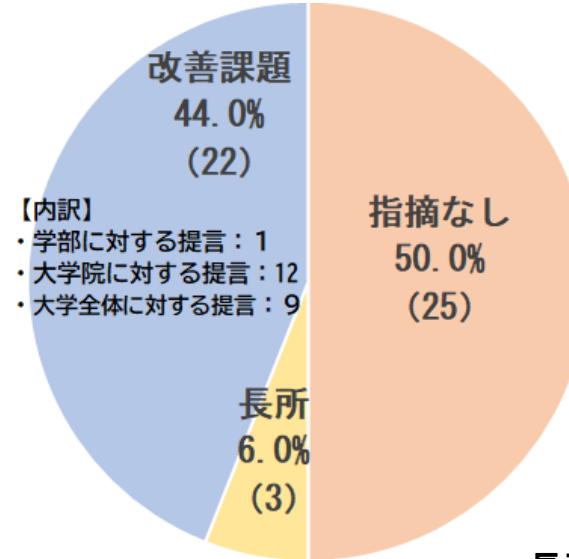


2022年度評価結果

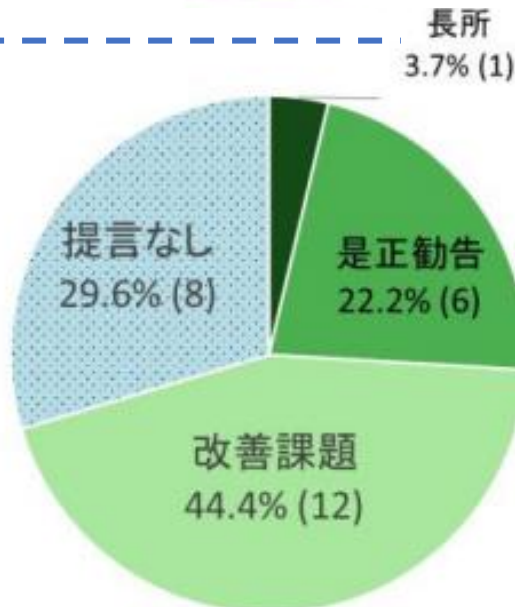
申請大学数:50

学習成果の把握・評価の取り組みは大学で進んでいる

* 長所検索における「#学習成果」の件数
26件(2018~2022)

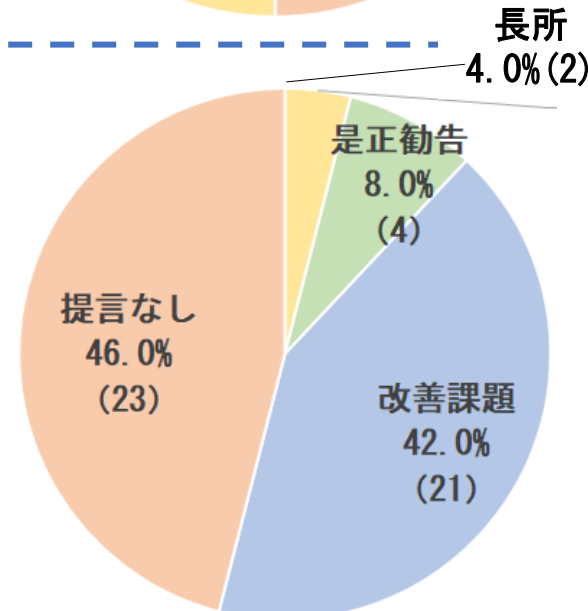


内部質保証



内部質保証の機能は今後の課題

* 長所検索における「#内部質保証」の件数
8件(2018~2021)



学習成果の把握・評価

評価結果
13～14頁・長所

全学的な取り組み

- アセスメントポリシーに基づくアンケートによる学習成果の把握目的・方法の明確化
※予習・復習時間、成績評価、成長実感、就職率・就職満足度等
 - 学生アンケート、卒業時アンケート、修了時アンケートに学位授与方針の各事項の達成度項目を設定
 - 学位授与方針対応表の整備
 - 各科目GPAをレーダーチャートで可視化
- ➡結果を独自のダッシュボードにとりまとめ

把握・評価結果の活用

- ダッシュボードに一元的にとりまとめた情報をカリキュラムの自己点検・評価へ活用
- 学部単位でのカリキュラム改正への活用

内部質保証

評価結果
5～8頁

全学的な取り組み

- ◆ 推進主体：「大学評価委員会」
- ◆ 学部・研究科における点検・評価
➡ダッシュボードのIRデータの活用
- ◆ 部署別自己点検・評価、内部質保証関連項目に係るチェックリストを活用した評価
- ◆ 学外の視点を取り入れる工夫【長所】
 - ・ 質保証外部評価委員会の設置
 - ・ 学部等評価委員会、企画に係るWGへの学外委員の登用
- ◆ 全学的な改善：「大学評価委員会」での重点課題の設定、推進部署の明示・改善指示

学習成果の把握・評価

評価結果
14～15頁

全学的な取り組み

- アセスメントプランに基づく学習成果の把握方法の明示
- 授業評価アンケート、学修評価票
 - ➡学位授与方針に定める能力の到達度を自己評価する項目の設定（学部・研究科）
 - ➡各科目と学位授与方針に関連をもとに、修得すべき能力等の達成度を可視化
- 学修ポートフォリオの導入（2022年度～）

把握・評価結果の活用

- 学修評価票を活用したアドバイザー面談
- 面談の記録としてのポートフォリオ
- ➡これらの活用実績、学生支援の充実に期待

内部質保証

評価結果
5～7頁

全学的な取り組み

- ◆ 推進主体：「推進会議」
- ◆ 年度ごとの取り組み計画、年度ごとの評価と評点で年度計画の進捗状況を管理
- ◆ 内部質保証の方針…
 - ・ 自己点検・評価、外部評価、各種アセスメントによるデータを中期目標・中期計画、教育研究組織・事務組織の活動計画等に反映
 - ・ 教育研究活動等の全学的な改善・向上を着実に推進する
- ◆ 全学的な改善：「推進会議」で改善方針を審議、関係部署・委員会に助言・改善措置を指示、次年度の計画策定へ反映

学習成果の把握・評価

評価結果
13～14頁

全学的な取り組み

- 卒業時/修了時学位授与方針達成度調査による把握
 - ➡学位授与方針に示した学習成果と連関する調査項目を設定
- カリキュラム・マップの整備
 - ➡学習成果と各科目の対応関係を明示
- ルーブリックの活用を進行中
 - ➡卒業研究、修士論文・博士論文の審査、実習科目・演習科目の評価で導入開始

把握・評価結果の活用

- カリキュラムの見直し、科目新設等に活用
- 学習成果の把握結果の蓄積、教育の充実が学習成果の向上につながったかは、今後の取り組みに期待

内部質保証

評価結果
4～7頁

全学的な取り組み

- ◆ 推進主体：「教育研究審議会」
- ◆ アニュアル・レビューを通じた年度計画の実績・課題、次の年度計画の共有
- ◆ 全学レベル、学部・研究科レベル、教員・授業レベルでの質保証
- ◆ 全学レベルの質保証：
 - ・教育の質に関連するデータの蓄積
 - ・必要に応じて分析・評価、教育の改善・向上への取り組み
- 全学的な改善：学長のもとに「大学教育改革委員会」がプロジェクトを立ち上げ、各学部・研究科に改善提案

Thank you for your attention!



評価結果にかかる情報提供



大学基準協会ウェブサイト <https://www.juaa.or.jp/>

- 「評価結果検索」 : <https://www.juaa.or.jp/search/>
- 「評価結果の分析」 <https://www.juaa.or.jp/accreditation/institution/result/>
- 「大学の長所・特色検索」 https://www.juaa.or.jp/case_study/

評価にかかる情報提供



- 『大学評価ハンドブック』
(評価の概要、評価基準、評価体制、評価方法について説明：申請大学/評価者向け)
<https://www.juaa.or.jp/accreditation/institution/handbook/>
- 正会員大学・短期大学の教職員を対象に、内部質保証に関する取り組み、自己点検・評価の実質化に向けた取り組みの実践例を情報共有し、自らの大学・短期大学が実施すべきことを考える機会となる「**スタディー・プログラム**」を年2回開催しています。
※本協会からの案内・HP告知をご覧ください。過去の開催はHP・レポートで参照できます。